オプション検査のご案内

検査概要・対象となる方の目安・注意事項を詳しく知る

この資料では、各オプション検査の検査概要・対象となる方の目安・注意事項をご案内します。

「オプション検査ガイド」で候補を見つけ、「オプション検査一覧」で申込区分・検査方法・料金を確認した後、候補となった検査について詳しくご確認ください。

内容を確認し、受ける検査を決めてお申し込みください。

検査選びに迷われた場合は、スタッフへご相談ください。

全検査共通の注意事項

※本資料は、オプション検査を検討する際の参考資料です。検査だけで病気を確定することはできません。異常が疑われた場合は、診察や追加検査が必要です。症状がある方、治療中・経過観察中の方・過去の検査で異常を指摘された方は、主治医または医療機関へご相談ください。

この資料で確認できること

- **検査概要**
  何をどのような方法で調べる検査なのかを、簡潔にご説明します。
- **対象となる方の目安**
  年齢・性別、生活習慣、既往歴、家族歴、知りたいことなどから、検査を検討する際の目安をご案内します。
- **注意事項**
  事前確認が必要なこと、検査の限界、主な負担などをご案内します。

目次

各検査区分をコード順に掲載しています。検査名とコードを確認してから、該当する検査の詳細をご覧ください

コード	検査区分	検査名	ページ
A	**脳検査**	A-1 頭部 MRI／A-2 頭部 MRA／A-3 頸部 MRA	3
B	**心臓検査**	B-1 心電図（安静時）／B-2 心臓超音波検査／B-3 冠動脈造影 CT 検査	6
C	**動脈硬化検査**	C-1 足関節上腕血圧指数測定／C-2 頸動脈超音波検査	9
D	**睡眠健診**	D-1 （簡易型）睡眠時無呼吸症候群検査	11
E	**生活習慣病リスク検査**	E-1 sd-LDL／E-2 NT-proBNP／E-3 LOX-index／E-4 HbA1c	12
F	**肺検査**	F-1 胸部 CT 検査／F-2 喀痰検査／F-3 呼吸機能検査	15
G	**膵臓検査**	G-1 腹部造影 CT 検査〔ダイナミック CT 撮影〕	18
H	**前立腺検査**	H-1 PSA〔前立腺特異抗原〕値測定	20
I	**全大腸 CT 検査**	I-1 全大腸 CT 検査	21
J	**胃がんリスク検査**	J-1 胃がんリスク層別化検査〔ABC 分類〕	22
K	**便検査**	K-1 便潜血反応検査／K-2 ピロリ菌抗原検査／K-3 腸内フローラ検査	23
L	**腹部スクリーニング検査**	L-1 腹部超音波検査	26
M	**がんリスク・腫瘍マーカー検査**	M-1 膵臓セット／M-2 肺セット／M-3 乳腺・卵巣セット／M-4 肝臓セット／M-5 消化器セット／M-6 多臓器セット	27
N	**婦人科検査**	N-1 子宮頸部細胞診／N-2 経腟超音波／N-3 子宮体部細胞診／N-4 HPV 検査	33
O	**乳房検査**	O-1 マンモグラフィ検査〔2 方向 3D〕／O-2 乳腺超音波検査	36
P	**骨粗しょう症検査**	P-1 骨密度測定〔DXA 法〕／P-2 血清 NTx	38
Q	**甲状腺検査**	Q-1 甲状腺超音波検査／Q-2 甲状腺関連ホルモン検査〔TSH・FT3・FT4〕	40
R	**関節リウマチ検査**	R-1 RF〔リウマトイド因子〕／R-2 CRP	42
S	**眼科検査**	S-1 眼圧検査／S-2 眼底検査／S-3 視力検査／S-4 色覚検査	44
T	**アレルギー検査**	T-1 View39 検査	48
U	**感染症検査**	肝炎関連（U-1 HBs 抗原／U-2 HBs 抗体／U-3 HCV 抗体／U-4 HAV-IgM） 性感染症関連（U-5 RPR＋TPHA／U-6 HIV 検査） その他の検査（U-7 麻疹抗体／U-8 風疹抗体／U-9 ムンプス抗体〔流行性耳下腺炎〕抗体／U-10 ヘルペス抗体）	49
V	**歯科健診**	V-1 歯科健診	57
W	**その他の検査**	W-1 血液型検査〔ABO・Rh〕／W-2 聴力検査／W-3 体組成測定	61

A　脳検査

頭部 MRI・頭部 MRA・頸部 MRA を組み合わせ、脳そのものの異常、脳の血管、頸から脳へ向かう血管の状態を確認する検査です。脳梗塞、脳出血の跡、脳腫瘍、未破裂脳動脈瘤、血管の狭窄などの早期発見に役立ちます。

― 共通の注意事項 ―

- **※MRI 検査室には、時計、スマートフォン、カード類、補聴器、アクセサリー、磁気製品などは持ち込めません。**
  ※体内金属や植込み型医療機器がある方は、検査を受けられない場合があります。事前にお申し出ください。
  ※検査中は大きな音がします。動かずに横になっていただく必要があります。

A-1　頭部 MRI

検査概要

- 強い磁石と電磁波を用いて脳を断面画像として撮影し、脳梗塞の跡、脳出血の跡、脳腫瘍、脳萎縮、白質病変などを確認する検査です。

対象となる方の目安

- 40 歳以上で、脳の健康状態を確認したい方
- 高血圧、糖尿病、脂質異常症、喫煙習慣がある方
- 脳梗塞、脳出血、認知症などの家族歴がある方
- 頭痛、めまい、ふらつき、物忘れなどが気になる方
- 健診で心房細動、動脈硬化、血圧高値などを指摘されたことがある方
- 過去に脳の画像検査で異常や経過観察を指摘されたことがある方

注意事項

- 体内金属、ペースメーカー、人工内耳、脳動脈瘤クリップ、手術歴がある方は、事前確認が必要です。
- 閉所恐怖症の方、長時間同じ姿勢がつらい方は事前にご相談ください。

- 妊娠中または妊娠の可能性がある方は、事前確認が必要です。

A-2　頭部 MRA

検査概要

- 脳の血管を画像化し、未破裂脳動脈瘤、脳血管の狭窄・閉塞、血管の形の異常などを確認する検査です。

対象となる方の目安

- 40 歳以上で、脳の血管の状態を確認したい方
- 高血圧、喫煙、脂質異常症、糖尿病などがある方
- くも膜下出血、脳動脈瘤、脳卒中の家族歴がある方
- 脳動脈瘤が心配な方
- めまい、ふらつき、一時的な手足のしびれ、言葉が出にくいなどが気になる方
- 将来の脳卒中リスクを早めに確認したい方

注意事項

- 小さな動脈瘤や血管の変化は、条件によって見えにくい場合があります。
- MRI と同様に、体内金属や植込み型医療機器がある方は、事前確認が必要です。

A-3　頸部 MRA

検査概要

- 頸の血管を画像化し、頸動脈や椎骨動脈の狭窄、閉塞、動脈硬化による血管の変化を確認する検査です。

対象となる方の目安

- 脳へ血液を送る頸の血管の状態を確認したい方

- 高血圧、糖尿病、脂質異常症、喫煙習慣がある方
- 動脈硬化、頸動脈プラーク、頸動脈狭窄を指摘されたことがある方
- 脳梗塞、一過性脳虚血発作、心筋梗塞などの家族歴がある方
- めまい、ふらつき、一時的な片側のしびれ・脱力が気になる方
- 頭部 MRA とあわせて、頸から脳へ向かう血管も確認したい方

注意事項

- 血管の狭窄が疑われた場合は、頸動脈超音波検査、造影 CT、MRI、専門医による診察などが必要になることがあります。
- 血流の状態や撮影条件によって、狭窄の程度が実際より強く、または弱く見えることがあります。
- MRI と同様に、体内金属や植込み型医療機器がある方は、事前確認が必要です。

B　心臓検査

心電図（安静時）・心臓超音波検査・冠動脈造影 CT 検査を組み合わせ、心臓の電気的な動き、心臓の形や働き、心臓の血管の状態を確認する検査です。

B-1　心電図（安静時）

検査概要

- 胸や手足に電極をつけ、心臓の電気的な動きを記録し、不整脈、心筋梗塞の既往、心肥大などの手がかりを確認する検査です。

対象となる方の目安

- 動悸、脈の乱れ、胸の違和感が気になる方
- 健診で心電図異常を指摘されたことがある方
- 高血圧、糖尿病、脂質異常症、肥満、喫煙習慣がある方
- 狭心症、心筋梗塞、不整脈などの家族歴がある方
- 運動を始める前に、心臓の状態を確認しておきたい方
- 自覚症状がなくても、心臓病リスクを早めに確認したい方

注意事項

- 短時間の記録のため、検査時に出ていない不整脈や狭心症発作は見つからないことがあります。

B-2　心臓超音波検査

検査概要

- 胸に超音波をあてて、心臓の大きさ、壁の厚さ、動き、弁の状態、血液の流れ、ポンプ機能を確認する検査です。

対象となる方の目安

- 息切れ、むくみ、動悸、胸の違和感が気になる方
- 健診で心雑音、心拡大、心電図異常を指摘されたことがある方
- 高血圧が長く続いている方
- 心不全、弁膜症、心筋症などが心配な方
- 家族に心臓病の方がいる方
- 心臓の動きやポンプ機能を詳しく確認したい方

注意事項

- 体格、肺の状態、肋骨の位置などにより、画像が見えにくい場合があります。
- 検査中は左側を下にして横になっていただくことがあります。
- 心臓の血管そのものの狭窄を直接確認する検査ではありません。

B-3　冠動脈造影 CT 検査

検査概要

- 造影剤を注射して CT 撮影を行い、心臓に血液を送る冠動脈の狭窄、石灰化、動脈硬化の状態を確認する検査です。

対象となる方の目安

- 狭心症や心筋梗塞のリスクが気になる方
- 胸の圧迫感、胸の痛み、運動時の息切れが気になる方
- 高血圧、糖尿病、脂質異常症、肥満、喫煙習慣がある方
- 家族に狭心症、心筋梗塞、突然死の方がいる方
- 健診で心電図異常や動脈硬化リスクを指摘されたことがある方
- 冠動脈の狭窄や石灰化の有無を詳しく確認したい方
- 心臓病の早期発見や生活習慣改善に役立てたい方

注意事項

- 造影剤と放射線を使用します。
- 造影剤アレルギー、腎機能低下、気管支喘息がある方、妊娠中または妊娠の可能性がある方は、事前確認が必要です。
- きれいな画像を撮影するため、心拍数を下げる薬や冠動脈を広げる薬を使用することがあります。
- 不整脈が強い方、心拍数が速い方、高度な石灰化がある方では、画像評価が難しい場合があります。

C　動脈硬化検査

足関節上腕血圧指数測定と頸動脈超音波検査を組み合わせ、足の血管の詰まりやすさと、頸の血管の動脈硬化の状態を確認する検査です。脳梗塞・心筋梗塞・閉塞性動脈硬化症などのリスク把握に役立ちます。

C-1　足関節上腕血圧指数測定

検査概要

- 両腕と両足首の血圧を測定し、腕と足の血圧の比から、足の動脈の狭窄や閉塞の可能性を確認する検査です。

対象となる方の目安

- 40 歳以上で、動脈硬化が気になる方
- 高血圧、糖尿病、脂質異常症、肥満、喫煙習慣がある方
- 心筋梗塞、狭心症、脳梗塞などの家族歴がある方
- 歩くと足が痛くなり、休むと楽になる方
- 足の冷え、しびれ、足先の色の悪さが気になる方
- 健診で血圧・血糖・脂質の異常を指摘されたことがある方
- 足の血流や動脈硬化の程度を確認したい方

注意事項

- 血圧計のカフで腕や足を圧迫するため、一時的に締めつけ感があります。
- 糖尿病や透析中の方では、血管の石灰化により実際より高い値になる場合があります。
- 足の血流低下が疑われる場合は、血管外科・循環器内科などでの精密検査が必要になることがあります。
- 透析シャント、乳がん術後のリンパ浮腫、強い痛みや創部がある場合は、測定部位について事前確認が必要です。

C-2　頸動脈超音波検査

検査概要

- 頸に超音波をあてて頸動脈を観察し、血管壁の厚さ、プラーク、狭窄、血流の状態などを確認する検査です。

対象となる方の目安

- 40 歳以上で、動脈硬化や脳梗塞リスクが気になる方
- 高血圧、糖尿病、脂質異常症、肥満、喫煙習慣がある方
- 脳梗塞、一過性脳虚血発作、心筋梗塞などの家族歴がある方
- 健診で頸動脈プラーク、動脈硬化、脂質異常を指摘されたことがある方
- めまい、ふらつき、一時的なしびれなどが気になる方
- 頸の血管の状態を確認し、生活習慣改善に役立てたい方
- 脳検査や心臓検査とあわせて、血管の状態も確認したい方

注意事項

- 体格、頸の形、血管の位置、石灰化の程度などにより、見えにくい場合があります。
- 狭窄やプラークが疑われた場合は、頸部 MRA、造影 CT、血液検査、専門医による診察などが必要になることがあります。
- 頸動脈の状態は、全身の動脈硬化を考える参考になりますが、脳梗塞や心筋梗塞を完全に予測できるものではありません。

D　睡眠健診

（簡易型）睡眠時無呼吸症候群検査により、睡眠中の呼吸の乱れ、いびき、血中酸素の低下などを確認し、睡眠時無呼吸症候群の可能性を調べる検査です。

D-1　（簡易型）睡眠時無呼吸症候群検査

検査概要

- 自宅などで就寝中に検査機器を装着し、呼吸の状態、いびき、血中酸素濃度の低下などを測定して、睡眠時無呼吸症候群の可能性を確認する検査です。

対象となる方の目安

- いびきが大きい、または家族からいびきを指摘されたことがある方
- 睡眠中に呼吸が止まっている、苦しそうにしていると言われたことがある方
- 日中の強い眠気、居眠り、集中力低下が気になる方
- 朝起きたときの頭痛、熟睡感がない、疲れが取れない方
- 肥満傾向、頸まわりが太い、体重増加がある方
- 高血圧、糖尿病、脂質異常症、心疾患、脳血管疾患がある方
- 夜間頻尿、寝汗、口の渇きが気になる方
- 運転業務、危険作業、長時間勤務など、日中の眠気が事故につながりやすい方
- 睡眠の質や生活習慣病との関連が気になる方

注意事項

- 装着が不十分な場合や睡眠時間が短い場合は、正確に判定できないことがあります。
- 結果によっては、終夜睡眠ポリグラフ検査（PSG）などが必要です。
- 検査当日は、できるだけ普段どおりにお休みください。

E　生活習慣病リスク検査

sd-LDL、NT-proBNP、LOX-index、HbA1c を組み合わせ、動脈硬化、心臓への負担、糖尿病リスクなどを血液検査で確認する検査です。

E-1　sd-LDL

検査概要

- 小型で血管壁に入り込みやすい悪玉 LDL を測定し、動脈硬化や心血管疾患リスクの把握に役立てる血液検査です。

対象となる方の目安

- LDL コレステロールや中性脂肪が高い方
- HDL コレステロールが低い方
- 高血圧、糖尿病、肥満、脂肪肝を指摘されたことがある方
- 喫煙習慣がある方
- 家族に心筋梗塞、狭心症、脳梗塞の方がいる方
- 動脈硬化や血管年齢が気になる方
- 通常の脂質検査に加えて、より詳しく血管リスクを確認したい方

注意事項

- sd-LDL が高い場合でも、それだけで病気を確定するものではありません。
- LDL コレステロール、中性脂肪、血圧、血糖、喫煙歴などと合わせて総合的に判断します。
- 食事内容や中性脂肪の状態に影響を受けることがあります。

E-2　NT-proBNP

検査概要

- 心臓に負担がかかったときに上昇しやすい物質を測定し、心不全や心臓への負担の有無を確認する血液検査です。

対象となる方の目安

- 息切れ、動悸、むくみ、疲れやすさが気になる方
- 高血圧が長く続いている方
- 心電図異常、心拡大、心雑音を指摘されたことがある方
- 心不全、心筋梗塞、弁膜症、不整脈などの既往がある方
- 家族に心臓病の方がいる方
- 糖尿病、腎機能低下、脂質異常症、肥満がある方
- 心臓への負担を血液検査で確認したい方

注意事項

- NT-proBNP が高い場合でも、それだけで心不全と確定するものではありません。
- 腎機能低下、高齢、不整脈、肺疾患などでも高値になることがあります。
- 肥満の方では、値が低めに出ることがあります。

E-3　LOX-index

検査概要

- 動脈硬化に関連する酸化 LDL などの指標を測定し、将来の脳梗塞・心筋梗塞リスクの評価に役立てる血液検査です。

対象となる方の目安

- 動脈硬化、脳梗塞、心筋梗塞のリスクが気になる方
- 高血圧、糖尿病、脂質異常症、肥満、喫煙習慣がある方
- 家族に脳梗塞、心筋梗塞、狭心症の方がいる方
- 健診で血圧、血糖、脂質の異常を指摘されたことがある方
- 生活習慣を見直すきっかけとして、血管リスクを確認したい方
- 動脈硬化検査や心臓検査とあわせて、血液検査でもリスクを確認したい方

注意事項

- LOX-index は将来のリスクを評価する検査であり、現在の脳梗塞や心筋梗塞を診断する検査ではありません。
- 結果は生活習慣や他の検査結果と合わせて総合的に判断します。
- リスクが低い結果でも、将来の病気を完全に否定するものではありません。
- リスクが高い場合は、血圧・血糖・脂質管理、禁煙、運動、食事改善などが重要です。

E-4　HbA1c

検査概要

- 過去 1～2 か月の平均的な血糖状態を反映し、糖尿病や糖尿病予備群の可能性を確認する血液検査です。

対象となる方の目安

- 糖尿病や血糖値が気になる方
- 健診で血糖高値、尿糖陽性、HbA1c 高値を指摘されたことがある方
- 肥満、運動不足、食べすぎ、甘いものや清涼飲料水の摂取が多い方
- 家族に糖尿病の方がいる方
- 高血圧、脂質異常症、脂肪肝を指摘されたことがある方
- 口渇、多尿、体重減少、疲れやすさが気になる方
- 将来の糖尿病リスクを早めに確認し、生活改善に役立てたい方

注意事項

- HbA1c だけで糖尿病を確定診断するものではなく、血糖値や症状などと合わせて判断します。
- 貧血、腎臓病、肝臓病、輸血後、妊娠中などでは、実際の血糖状態とずれることがあります。
- 直近数日間の食事や運動の影響は反映されにくい検査です。

F　肺検査

胸部 CT 検査・喀痰検査・呼吸機能検査を組み合わせ、肺がんが疑われる病変、気道の異常、肺気腫・慢性閉塞性肺疾患（COPD）などによる呼吸機能の低下を確認する検査です。

— 共通の注意事項 —

※胸部 CT 検査では放射線を使用します。妊娠中または妊娠の可能性がある方は、事前にお申し出ください。
※喫煙している方には、検査結果にかかわらず禁煙をお勧めします。

F-1　胸部 CT 検査

検査概要

- 胸部 CT で肺を撮影し、肺結節などの有無を確認する検査です。検査では放射線被ばくがあり、良性病変を含む異常が見つかることや、追加検査が必要になることがあります。また、すべての肺がんを発見できるものではありません。

対象となる方の目安

- 50 歳以上で、肺がんや肺の病気が気になる方
- 喫煙中の方、または過去に喫煙歴がある方
- 喫煙指数が高い方
  ※喫煙指数＝1 日の喫煙本数 × 喫煙年数
- 家族に肺がんの方がいる方
- 胸部 X 線検査で異常を指摘されたことがある方
- 肺気腫、慢性気管支炎、間質性肺炎などを指摘されたことがある方
- 胸部 CT 検査で、肺の小さな結節や肺の変化を詳しく確認したい方

注意事項

- CT 検査では放射線被ばくがあります。
- 妊娠中または妊娠の可能性がある方は、事前確認が必要です。

- 小さな影が見つかった場合でも、良性の結節や炎症の跡であることがあります。

F-2　喀痰検査

検査概要

- 痰を採取し、痰の中にがんが疑われる細胞や異常な細胞が含まれていないかを顕微鏡で確認する検査です。

対象となる方の目安

- 喫煙中の方、または過去に喫煙歴がある方
- 喫煙指数が高い方
- 痰がよく出る方
- 血痰が出たことがある方
- 長引く咳や痰が気になる方
- 肺がん、特に気管支に近い部位にできるがんが心配な方
- 胸部 CT 検査や胸部 X 線検査とあわせて、痰の中の細胞も確認したい方

注意事項

- 痰が十分に採取できない場合は、正確に判定できないことがあります。
- 唾液だけでは検査に適さないため、できるだけ肺や気管支から出る痰を採取する必要があります。
- 検査結果が陰性でも、肺がんを完全に否定するものではありません。

F-3　呼吸機能検査

検査概要

- マウスピースをくわえて息を吸ったり吐いたりし、肺活量、1 秒量、1 秒率などを測定して、肺の大きさや空気の通りやすさを確認する検査です。

対象となる方の目安

- 息切れ、呼吸のしにくさ、咳、痰が気になる方
- 喫煙中の方、または過去に喫煙歴がある方
- 肺気腫、COPD、喘息、慢性気管支炎が気になる方
- 階段や坂道で息切れしやすい方
- 胸部 CT 検査で肺気腫や間質性肺炎などを指摘されたことがある方
- 職業上、粉じん・煙・化学物質などを吸い込む機会がある方
- 肺年齢や肺活量を確認し、禁煙や運動習慣の見直しに役立てたい方

注意事項

- 検査では大きく息を吸い、強く吐き出す必要があります。
- 体調不良、強い咳、胸痛、気胸、最近の手術後などがある場合は、実施可否の確認が必要です。
- 検査時の努力の程度によって、結果が変わることがあります。

G　膵臓検査

腹部造影 CT 検査（ダイナミック CT 撮影）は、造影剤を注射し、時間差で複数回 CT 撮影を行うことで、膵臓がんの早期発見を目的とした検査です。膵臓の腫瘤、膵のう胞、膵管拡張、周囲血管との関係などを詳しく確認します。

G-1　腹部造影 CT 検査〔ダイナミック CT 撮影〕

検査概要

- 造影剤を使用して膵臓を時間差で撮影し、腫瘤、膵のう胞、膵管拡張、周囲血管との関係などを確認する検査です。小さな病変や早期の病変は、CT でも確認できない場合があります。

対象となる方の目安

- 50 歳以上で、膵臓がんや膵臓の病気が気になる方
- 家族に膵臓がんの方がいる方
- 糖尿病を指摘された方、または最近急に血糖コントロールが悪くなった方
- 慢性膵炎、膵のう胞、膵管内乳頭粘液性腫瘍（IPMN）、膵管拡張を指摘されたことがある方
- 喫煙習慣がある方、飲酒量が多い方
- 肥満、脂肪肝、生活習慣病が気になる方
- 健診で膵酵素、肝胆道系酵素、腫瘍マーカーなどの異常を指摘されたことがある方
- 腹部超音波検査で膵臓が見えにくい、または膵臓の精査を勧められたことがある方
- みぞおちや背中の違和感、食欲低下、体重減少などが気になる方
- 膵臓の状態を詳しく確認し、早期発見に役立てたい方

注意事項

- 造影剤と放射線を使用し、単純 CT より被ばく量が多くなる場合があります。
- 造影剤アレルギー、腎機能低下、気管支喘息、妊娠の可能性がある方は事前にお申し出ください。
- ビグアナイド系糖尿病薬は、休薬が必要になる場合があります。

- 小さな病変は見つけにくい場合があります。検査当日の食事・飲水・内服薬は案内に従ってください。

H　前立腺検査

PSA（前立腺特異抗原）値測定により、前立腺がんの可能性や前立腺の異常を血液検査で確認する検査です。

H-1　PSA〔前立腺特異抗原〕値測定

検査概要

- 採血により血液中の PSA 値を測定し、前立腺がんの可能性や前立腺肥大・前立腺炎などの前立腺異常を確認する検査です。

対象となる方の目安

- 50 歳以上の男性
- 家族に前立腺がんの方がいる男性
- 排尿回数が多い、夜間に何度もトイレに起きる方
- 尿が出にくい、尿の勢いが弱い、残尿感がある方
- 健診や診察で PSA 高値を指摘されたことがある方
- 前立腺肥大症、前立腺炎を指摘されたことがある方
- 血尿、排尿時の痛み、下腹部の違和感などが気になる方
- 前立腺がんの早期発見に関心がある方
- 定期的に PSA 値の変化を確認しておきたい方

注意事項

- PSA 値は、前立腺肥大症、前立腺炎、加齢などでも上昇します。
- 射精、前立腺への刺激、尿路感染などにより、一時的に上昇することがあります。
- 過去の結果がある場合は、数値の変化もあわせて確認します。

Ⅰ　全大腸 CT 検査

全大腸 CT 検査は、大腸に炭酸ガスまたは空気を入れてふくらませ、CT で大腸全体を撮影する検査です。大腸ポリープや大腸がんが疑われる病変の発見に役立ちます。

Ⅰ-1　全大腸 CT 検査

検査概要

- 肛門から細いチューブを入れて大腸に炭酸ガスまたは空気を注入し、CT で大腸全体を撮影して、大腸ポリープや大腸がんが疑われる病変を画像で確認する検査です。

対象となる方の目安

- 40 歳以上で、大腸がんや大腸ポリープが気になる方
- 家族に大腸がんや大腸ポリープの方がいる方
- 便潜血検査で陽性を指摘されたことがある方
- 以前に大腸ポリープを指摘されたことがある方
- 便秘、下痢、便が細い、排便習慣の変化が気になる方
- 大腸内視鏡検査に不安がある方、または内視鏡検査に抵抗がある方
- 大腸内視鏡検査が途中までしか入らなかったことがある方
- 大腸の状態を画像で確認し、早期発見に役立てたい方

注意事項

- 検査前に食事制限、下剤の内服などの前処置が必要です。
- 放射線被ばくがあり、検査中はお腹の張りを感じることがあります。
- 小さな病変や平坦な病変は見つけにくく、組織採取やポリープ切除はできません。
- 異常が疑われた場合や便潜血検査が陽性の場合は、大腸内視鏡検査が必要です。

J　胃がんリスク検査

胃がんリスク層別化検査（ABC 分類）は、血液検査でピロリ菌感染の有無と胃粘膜萎縮の程度を調べ、将来の胃がんリスクを評価する検査です。

J-1　胃がんリスク層別化検査〔ABC 分類〕

検査概要

- 採血により、ピロリ菌抗体とペプシノゲンを測定し、ピロリ菌感染の有無と胃粘膜萎縮の状態から、胃がんになりやすい胃の状態かどうかを分類する検査です。

対象となる方の目安

- 40 歳以上で、胃がんリスクが気になる方
- 胃がんの家族歴がある方
- これまでピロリ菌検査を受けたことがない方
- 慢性胃炎、胃潰瘍、十二指腸潰瘍を指摘されたことがある方
- 胃もたれ、胃痛、胸やけ、食欲低下などが気になる方
- 喫煙習慣、飲酒習慣、塩分の多い食生活が気になる方
- 胃内視鏡検査を受けるきっかけとして、まず胃のリスクを確認したい方
- 今後の胃がん検診の受け方や検診間隔を考える参考にしたい方

注意事項

- 胃がんを直接見つける検査ではなく、胃内視鏡検査や胃 X 線検査の代わりにはなりません。
- ピロリ菌除菌後、胃切除後、腎機能低下がある方、胃酸を抑える薬を服用中の方は、判定に注意が必要です。
- 低リスク判定でも、胃がんを完全に否定するものではありません。

K　便検査

便潜血反応検査・ピロリ菌抗原検査・腸内フローラ検査を組み合わせ、大腸からの出血、ピロリ菌感染の有無、腸内環境の傾向を確認する検査です。

K-1　便潜血反応検査

検査概要

- 便に混じった目に見えない血液を調べ、大腸がんや大腸ポリープなどによる出血の可能性を確認する検査です。

対象となる方の目安

- 40 歳以上で、大腸がん検診を希望される方
- 家族に大腸がんや大腸ポリープの方がいる方
- 便秘、下痢、便が細い、排便習慣の変化が気になる方
- 過去に便潜血陽性、大腸ポリープ、大腸炎などを指摘されたことがある方
- 喫煙、飲酒、肥満、運動不足、肉類中心の食生活などが気になる方
- 大腸内視鏡検査を受けるきっかけとして、まず便検査で確認したい方

注意事項

- 陽性となった場合は、再度便潜血検査を行うのではなく、大腸内視鏡検査などの精密検査をおすすめします。
- 陰性でも大腸がんや大腸ポリープを完全に否定できるわけではありません。
- 痔や月経血などの影響で陽性となることがあります。

K-2　ピロリ菌抗原検査

検査概要

- 便中のピロリ菌抗原を調べ、現在ピロリ菌に感染している可能性を確認する検査です。

対象となる方の目安

- ピロリ菌感染を調べたことがない方
- 胃がんの家族歴がある方
- 慢性胃炎、胃潰瘍、十二指腸潰瘍を指摘されたことがある方
- 胃もたれ、胃痛、胸やけ、食欲低下などが気になる方
- 胃がんリスク検査や胃内視鏡検査とあわせて確認したい方
- 過去にピロリ菌除菌治療を受け、除菌できているか確認したい方
- 採血ではなく、便検査でピロリ菌感染の有無を確認したい方

注意事項

- 本検査はピロリ菌感染の可能性を調べる検査であり、胃がんを直接見つける検査ではありません。
- 陽性の場合は、医療機関で除菌治療や胃内視鏡検査の必要性について相談することをおすすめします。
- ピロリ菌除菌治療後の判定では、治療終了から一定期間をあけて検査する必要があります。
- 抗菌薬や胃酸を抑える薬の使用中・使用直後では、結果に影響が出ることがあります。

K-3　腸内フローラ検査

検査概要

- 便を採取して腸内細菌の種類やバランスを調べ、腸内環境の特徴を確認する検査です。

対象となる方の目安

- 便秘、下痢、お腹の張り、ガスが気になる方

- 排便リズムが不規則な方
- 食生活の偏り、野菜不足、食物繊維不足が気になる方
- 外食、飲酒、脂質の多い食事が多い方
- 体重増加、肥満、生活習慣病が気になる方
- 肌荒れ、疲れやすさ、睡眠の質などを生活習慣面から見直したい方
- 抗菌薬の使用後など、腸内環境の変化が気になる方
- 自分に合った腸活や食生活改善のきっかけにしたい方
- 腸内環境を定期的に確認し、生活改善の効果を見たい方

注意事項

- 腸内フローラは、食事、睡眠、運動、ストレス、服薬、体調などの影響を受けて変化することがあります。
- 検査結果は、食事改善、運動、睡眠、ストレス対策などとあわせて活用することが大切です。

L　腹部スクリーニング検査

腹部超音波検査により、肝臓・胆のう・胆管・膵臓・腎臓・脾臓・腹部大動脈などを観察し、脂肪肝、胆石、ポリープ、のう胞、腫瘤、腹部大動脈瘤などの有無を確認する検査です。

L-1　腹部超音波検査

検査概要

- お腹に超音波をあてて、肝臓・胆のう・胆管・膵臓・腎臓・脾臓・腹部大動脈などを観察し、脂肪肝、胆石、胆のうポリープ、のう胞、腫瘤、結石、腹部大動脈瘤などを確認する検査です。

対象となる方の目安

- 40 歳以上で、腹部臓器の状態を確認しておきたい方
- 肥満、脂肪肝、飲酒習慣、運動不足が気になる方
- 肝機能異常、脂質異常症、糖尿病、高血圧を指摘されたことがある方
- 胆石、胆のうポリープ、腎結石、肝のう胞、腎のう胞などを指摘されたことがある方
- 家族に肝臓病、胆道疾患、膵臓病、腎臓病、腹部大動脈瘤の方がいる方
- みぞおち・右上腹部・背中の違和感、腹部膨満感などが気になる方
- 血液検査で肝胆道系酵素、膵酵素、腎機能などの異常を指摘されたことがある方
- がん検診や通常健診ではわかりにくい腹部臓器の変化を確認したい方
- 毎年の健診で、腹部臓器の変化を経年的に確認したい方

注意事項

- 胃腸のガスや体格により見えにくい部位があります。特に膵臓は観察が難しい場合があります。
- 検査当日の食事・飲水・内服薬は案内に従ってください。

M　がんリスク・腫瘍マーカー検査

腫瘍マーカー検査は、がんに関連して変化することがある血液中の物質や、遺伝子発現・尿中マイクロ RNA などを調べ、がんリスクの確認や精密検査のきっかけに役立てる検査です。

― 共通の注意事項 ―

※腫瘍マーカーの検査だけで、がんの有無を診断することはできません。
※がんがあっても異常を示さない場合や、がん以外の病気・体調などで異常を示す場合があります。
※国が推奨するがん検診の代わりになるものではありません。

M-1　膵臓セット

CA19-9・APOA2-i・DUPAN-2

検査概要

検査項目	概要
CA19-9	膵臓がん・胆道がんなどで上昇することがある代表的な腫瘍マーカーです。
APOA2-i	膵臓がんや膵がんリスク疾患で変化することがある血液バイオマーカーです。
DUPAN-2	膵臓がん・胆道がんなどで上昇することがあり、CA19-9 を補助する腫瘍マーカーです。

対象となる方の目安

- 50 歳以上で、膵臓がんや膵臓の病気が気になる方
- 家族に膵臓がんの方がいる方
- 糖尿病を指摘された方、または最近急に血糖コントロールが悪くなった方
- 慢性膵炎、膵のう胞、膵管内乳頭粘液性腫瘍（IPMN）、膵管拡張を指摘されたことがある方
- 喫煙習慣、飲酒量が多い、肥満、脂肪肝などが気になる方

- 腹部超音波検査で膵臓が見えにくい、または膵臓の精査を勧められたことがある方
- 膵臓検査や腹部画像検査とあわせて、血液検査でも確認したい方

注意事項

- 膵炎、胆道疾患、肝機能異常など、がん以外でも高値になることがあります。

M-2　肺セット

CEA・CYFRA21-1・SCC 抗原・ProGRP

検査概要

検査項目	概要
CEA	肺がんを含む複数のがんで上昇することがある、広く用いられる腫瘍マーカーです。
CYFRA21-1	主に非小細胞肺がん、特に扁平上皮がんなどで上昇することがある腫瘍マーカーです。
SCC 抗原	肺・食道・子宮頸部などの扁平上皮がんで上昇することがある腫瘍マーカーです。
ProGRP	小細胞肺がんで上昇することがある腫瘍マーカーです。

対象となる方の目安

- 50 歳以上で、肺がんや肺の病気が気になる方
- 喫煙中の方、または過去に喫煙歴がある方
- 喫煙指数が高い方
  ※喫煙指数＝1 日の喫煙本数 × 喫煙年数
- 家族に肺がんの方がいる方
- 胸部 X 線検査や胸部 CT 検査で異常を指摘されたことがある方
- 胸部 CT 検査とあわせて、血液検査でも確認したい方

注意事項

- 喫煙、炎症、肺疾患、腎機能低下などの影響で高値になることがあります。
- 肺の確認には、胸部 CT 検査などの画像検査が必要です。

M-3　乳腺・卵巣セット

CA125・CA15-3・CEA・CA72-4

検査概要

検査項目	概要
CA125	卵巣がんなどで上昇することがあり、子宮内膜症や月経などでも変動する腫瘍マーカーです。
CA15-3	乳がんで上昇することがあり、主に治療後の経過観察などで用いられる腫瘍マーカーです。
CEA	乳がんを含む複数のがんで上昇することがある、広く用いられる腫瘍マーカーです。
CA72-4	胃がんや卵巣がんなどで上昇することがある腫瘍マーカーです。

対象となる方の目安

- 乳がん・卵巣がんが気になる方
- 家族に乳がん、卵巣がん、婦人科がんの方がいる方
- 乳房検査や婦人科検査とあわせて、血液検査でも確認したい方
- 乳腺疾患、卵巣のう胞、子宮内膜症などを指摘されたことがある方
- 下腹部の張り、腹部膨満感、下腹部痛などが気になる方
- がん治療後や経過観察中で、主治医の方針に沿って確認したい方

注意事項

- CA125 は、月経、妊娠、子宮内膜症、炎症などでも上昇します。
- CA15-3 は、主に乳がん治療後の経過観察に用いられる検査です。

M-4　肝臓セット

AFP

検査概要

検査項目	概要
AFP	肝細胞がんなどで上昇することがある腫瘍マーカーで、慢性肝疾患の経過確認にも用いられます。

対象となる方の目安

- B 型肝炎・C 型肝炎を指摘されたことがある方
- 肝硬変、慢性肝炎、脂肪肝を指摘されたことがある方
- 健診で肝機能異常を指摘されたことがある方
- 飲酒量が多い方、肥満、糖尿病、脂質異常症がある方
- 家族に肝がん、肝硬変、肝炎の方がいる方
- 腹部超音波検査とあわせて、血液検査でも肝臓の状態を確認したい方

注意事項

- AFP は、慢性肝炎、肝硬変、妊娠などでも上昇します。
- 肝臓の確認には、超音波、CT、MRI などの画像検査が必要です。

M-5　消化器セット

マイクロアレイ血液検査

検査概要

検査項目	概要
マイクロアレイ血液検査	血液中の RNA 発現パターンを解析し、胃・大腸・膵臓・胆道などの消化器がんリスクを確認する検査です。

対象となる方の目安

- 胃がん、大腸がん、膵臓がん、胆道がんなどの消化器がんが気になる方
- 家族に消化器がんの方がいる方

- 胃内視鏡検査や大腸内視鏡検査を受けるきっかけを作りたい方
- 腹部症状は強くないが、血液検査で消化器がんリスクを確認したい方
- 健診で便潜血陽性、貧血、肝胆道系酵素異常などを指摘されたことがある方
- 食欲低下、体重減少、便通異常、腹部膨満感などが気になる方
- 画像検査や内視鏡検査とあわせて、補助的に確認したい方

注意事項

- 高リスク判定でもがんがあるとは限らず、低リスク判定でもがんを完全には否定できません。

M-6　多臓器セット

マイシグナルスキャン検査〔尿検査〕

検査概要

検査項目	概要
マイシグナルスキャン検査〔尿検査〕	尿中のマイクロ RNA などを AI で解析し、複数のがん種についてリスクを評価する尿検査です。

対象となる方の目安

- 複数のがんリスクを一度に確認したい方
- 採血が苦手で、尿検査による負担の少ない検査を希望する方
- がん検診を受けるきっかけを作りたい方
- 家族にがんの方が多く、幅広くリスクを確認したい方
- 忙しくて検査時間を取りにくい方
- 画像検査、内視鏡検査、各種がん検診とあわせて補助的に確認したい方
- 定期的にがんリスクの変化を確認したい方

注意事項

- 高リスク判定でもがんがあるとは限らず、低リスク判定でもがんを完全には否定できません。

- 結果は、画像検査や内視鏡検査などとあわせて確認します。

N　婦人科検査

子宮頸部細胞診・経腟超音波・子宮体部細胞診・HPV 検査を組み合わせ、子宮頸がん、子宮体がん、卵巣のう胞、子宮筋腫、HPV 感染の有無などを確認する検査です。

— 共通の注意事項 —

※妊娠中または妊娠の可能性がある方、月経中の方、性交経験のない方は、事前にご相談ください。
※不正出血などの症状がある方や、治療・経過観察中の方は、健診ではなく婦人科へご相談ください。

N-1　子宮頸部細胞診

検査概要

- 子宮の入口の細胞を専用のブラシなどで採取し、子宮頸がんや前がん病変が疑われる細胞の有無を調べる検査です。

対象となる方の目安

- 20 歳以上で、子宮頸がん検診を希望される方
- 子宮頸がん検診をしばらく受けていない方
- 不正出血、おりものの変化、性交後出血などが気になる方
- 子宮頸がん、子宮頸部異形成、HPV 感染を指摘されたことがある方
- 家族に婦人科がんの方がいる方
- 婦人科症状がなくても、定期的に子宮頸がん検診を受けたい方

注意事項

- 月経中は検体が採取しにくい場合があるため、検査日について事前確認が必要です。
- 妊娠中または妊娠の可能性がある方、性交経験のない方、検査に不安がある方は、事前にご相談ください。

N-2　経腟超音波

検査概要

- 腟から細い超音波機器を挿入し、子宮、卵巣、子宮内膜の厚さ、子宮筋腫、卵巣のう胞などを画像で確認する検査です。

対象となる方の目安

- 子宮や卵巣の状態を確認したい方
- 下腹部痛、腹部膨満感、月経痛、月経異常が気になる方
- 子宮筋腫、卵巣のう胞、子宮内膜症を指摘されたことがある方
- 閉経後の出血がある方
- 卵巣がん、子宮体がんなどが気になる方
- 婦人科検診で、子宮・卵巣を画像でも確認したい方

注意事項

- 子宮や卵巣の位置、腸管ガスなどにより見えにくい場合があります。
- 小さな病変や初期の病変は見つけにくいことがあります。
- 検査に不安がある方や性交経験のない方は、事前にご相談ください。

N-3　子宮体部細胞診

検査概要

- 子宮の奥にある子宮内膜の細胞を採取し、子宮体がんや前がん病変が疑われる細胞の有無を調べる検査です。

対象となる方の目安

- 閉経後の出血がある方
- 月経とは異なる不正出血がある方

- 月経量が多い、月経期間が長いなどの症状が気になる方
- 子宮体がんが気になる方
- 肥満、糖尿病、高血圧などがあり、子宮体がんリスクが気になる方
- 出産歴がない方、閉経が遅かった方などで婦人科疾患が気になる方
- 経腟超音波で子宮内膜の肥厚を指摘されたことがある方

注意事項

- 検査時に痛みや少量の出血を伴うことがあります。
- 子宮口が狭い方、閉経後の方、出産経験のない方では、検体採取が難しい場合があります。

N-4　HPV 検査

検査概要

- 子宮頸部から採取した細胞を用いて、子宮頸がんの主な原因となる高リスク型 HPV に感染しているかを調べる検査です。

対象となる方の目安

- 子宮頸がんの原因となる HPV 感染の有無を確認したい方
- 30 歳以上で、子宮頸がんリスクをより詳しく確認したい方
- 子宮頸部細胞診とあわせて確認したい方
- 子宮頸がん検診の受け方や受診間隔を考える参考にしたい方

注意事項

- HPV 陽性でも、必ず子宮頸がんになるわけではありません。
- HPV 陰性でも、将来の子宮頸がんを完全に否定するものではありません。
- 結果は、子宮頸部細胞診とあわせて確認します。

0　乳房検査

3D マンモグラフィ（トモシンセシス 2 方向撮影）と乳腺超音波検査を組み合わせ、乳がんが疑われる病変、石灰化、しこり、乳腺の変化などを確認する検査です。

— 共通の注意事項 —

※マンモグラフィと乳腺超音波検査では、見つけやすい病変が異なります。
※妊娠の可能性がある方、授乳中の方、豊胸術後の方、胸部に医療機器がある方は、事前にご相談ください。

0-1　3D マンモグラフィ（トモシンセシス 2 方向撮影）

検査概要

- 乳房を圧迫して 2 方向から X 線撮影を行い、3D 画像により乳腺の重なりを減らして、乳がんが疑われる病変や石灰化、構築の乱れなどを確認する検査です。

対象となる方の目安

- 40 歳以上で、乳がん検診を希望される方
- 家族に乳がんの方がいる方
- 過去に乳腺症、石灰化、しこり、乳腺の異常を指摘されたことがある方
- 乳房のしこり、痛み、張り、左右差などが気になる方
- 出産歴がない、初産年齢が高い、授乳歴がないなど、乳がんリスクが気になる方
- ホルモン補充療法を受けている方、または過去に受けたことがある方
- 乳がんの早期発見のため、乳房の状態を詳しく確認したい方

注意事項

- 乳房を圧迫するため痛みを伴うことがあり、少量の放射線被ばくがあります。

- 妊娠の可能性がある方、授乳中の方、豊胸術後の方、胸部に医療機器がある方は、事前にご相談ください。
- 高濃度乳房では、病変が見えにくい場合があります。

0-2　乳腺超音波検査

検査概要

- 乳房に超音波をあてて、しこり、のう胞、乳腺の変化、わきの下のリンパ節などを画像で確認する検査です。

対象となる方の目安

- 乳房のしこりや違和感が気になる方
- マンモグラフィで高濃度乳房と言われたことがある方
- 乳腺症、のう胞、線維腺腫などを指摘されたことがある方
- 乳房の痛み、張り、左右差などが気になる方
- 乳頭分泌や乳房内の変化が気になる方
- 若年の方や乳腺が発達している方で、乳房の状態を確認したい方
- マンモグラフィと組み合わせて、より詳しく乳房を確認したい方

注意事項

- 検査時にゼリーを使用し、乳房に探触子をあてて観察します。
- 石灰化など、マンモグラフィの方が見つけやすい病変もあります。
- 小さな病変や乳腺の状態によっては、見つけにくい場合があります。

P　骨粗しょう症検査

骨密度測定（DXA 法）と血清 NTx を組み合わせ、骨の量と骨の代謝状態を確認し、骨粗しょう症や将来の骨折リスクの把握に役立てる検査です。

P-1　骨密度測定〔DXA 法〕

検査概要

- 少量の X 線を用いて腰椎や大腿骨などの骨密度を測定し、骨の量が低下していないか、骨粗しょう症や骨折リスクが高くないかを確認する検査です。

対象となる方の目安

- 50 歳以上の女性、特に閉経後の方
- 60 歳以上の男性で、骨粗しょう症や骨折が気になる方
- 身長が縮んだ、背中が丸くなった、腰や背中の痛みが気になる方
- 軽い転倒や日常動作で骨折したことがある方
- 家族に骨粗しょう症や大腿骨近位部骨折の方がいる方
- やせ型、運動不足、喫煙、過度の飲酒、カルシウム摂取不足が気になる方
- ステロイド薬を長期間使用している方
- 糖尿病、慢性腎臓病、甲状腺疾患、関節リウマチなどがある方
- 将来の骨折予防のため、骨の強さを早めに確認したい方

注意事項

- DXA 法では少量の放射線を使用します。
- 妊娠中または妊娠の可能性がある方は、事前確認が必要です。
- 測定部位に金属、人工関節、強い変形、圧迫骨折などがある場合、結果の解釈に注意が必要です。
- 骨密度が正常でも、転倒、薬剤、病気、生活習慣などにより骨折リスクが高くなることがあります。

P-2　血清 NTx

検査概要

- 採血により、骨が分解されるときに出る成分を測定し、骨吸収の程度や骨代謝の状態を確認する血液検査です。

対象となる方の目安

- 骨密度低下や骨粗しょう症が気になる方
- 骨が壊されるスピード、つまり骨吸収の状態を確認したい方
- 閉経後の女性で、骨量低下が心配な方
- 骨粗しょう症治療中または治療歴があり、骨代謝の変化を確認したい方
- ステロイド薬を長期間使用している方
- 甲状腺機能亢進症、副甲状腺疾患、慢性腎臓病などがある方
- 骨密度測定とあわせて、骨の代謝状態も確認したい方

注意事項

- 血清 NTx は骨代謝の状態をみる検査であり、骨粗しょう症を単独で確定診断する検査ではありません。
- 腎機能、年齢、閉経、骨折後、薬剤、他の病気などの影響を受けることがあります。
- 骨密度測定、骨折歴、年齢、生活習慣、内服薬などと合わせて総合的に判断します。
- 検査値の変化をみる場合は、同じ検査方法で経時的に確認することが大切です。

Q　甲状腺検査

甲状腺超音波検査と甲状腺関連ホルモン検査を組み合わせ、甲状腺の「形の異常」と「働きの異常」を確認する検査です。

Q-1　甲状腺超音波検査

検査概要

- 頸に超音波をあてて、甲状腺の大きさ、腫れ、しこり、のう胞、結節、内部の状態などを確認する検査です。

対象となる方の目安

- 頸の腫れ、しこり、違和感が気になる方
- 健診や診察で甲状腺腫大、甲状腺結節を指摘されたことがある方
- 家族に甲状腺疾患の方がいる方
- 甲状腺のう胞、甲状腺結節、橋本病、バセドウ病などを指摘されたことがある方
- 甲状腺ホルモン検査で異常を指摘されたことがある方
- 甲状腺の大きさやしこりの有無を画像で確認したい方

注意事項

- 体格や甲状腺の位置などにより、見えにくい場合があります。
- しこりの多くは良性ですが、経過観察や細胞診が必要になることがあります。
- 甲状腺の働きは、超音波検査では判断できません。

Q-2　甲状腺関連ホルモン検査〔TSH・FT3・FT4〕

検査概要

- 採血により TSH・FT3・FT4 を測定し、甲状腺ホルモンが多すぎる状態や少なすぎる状態がないかを確認する検査です。

対象となる方の目安

- 動悸、手のふるえ、汗が多い、体重減少が気になる方
- 疲れやすい、寒がり、むくみ、体重増加、便秘が気になる方
- 脈が速い、脈が乱れる、血圧が高いなどが気になる方
- 月経不順、更年期に似た症状、気分の落ち込みなどが気になる方
- コレステロール高値を指摘されたことがある方
- 健診や診察で甲状腺機能異常を指摘されたことがある方
- 家族に橋本病、バセドウ病などの甲状腺疾患の方がいる方
- 妊娠を考えている方、または妊娠前に甲状腺機能を確認したい方
- 甲状腺の働きが過剰または低下していないか確認したい方

注意事項

- 甲状腺機能亢進症、甲状腺機能低下症、橋本病、バセドウ病などの判断には、症状、診察、自己抗体検査、超音波検査などを合わせて確認する必要があります。
- 薬剤、妊娠、強い体調不良、他の病気などにより、検査値が変動することがあります。
- 甲状腺ホルモン検査では、甲状腺のしこりや腫瘍の有無は直接わかりません。

R　関節リウマチ検査

RF と CRP を組み合わせ、関節リウマチに関連する自己抗体の有無と、体内の炎症の程度を確認する血液検査です。

R-1　RF〔リウマトイド因子〕

検査概要

- 採血により、関節リウマチなどで陽性になることがある自己抗体を調べる血液検査です。

対象となる方の目安

- 朝起きたときに手指や関節がこわばる方
- 手指、手首、足指などの関節の腫れや痛みが続く方
- 左右対称に関節の痛みや腫れがある方
- 関節の痛みが数週間以上続いている方
- 家族に関節リウマチや膠原病の方がいる方
- 健診や診察で RF 高値を指摘されたことがある方
- 関節リウマチが心配で、早めに確認しておきたい方

注意事項

- RF は関節リウマチの診断に役立つ検査ですが、RF だけで関節リウマチを確定診断することはできません。
- 関節リウマチ以外の病気や感染症、加齢などでも陽性になることがあります。
- 健康な方でも RF が陽性になる場合があります。
- 関節リウマチでも、RF が陰性の場合があります。

R-2　CRP

検査概要

- 採血により、体内の炎症の程度を反映する CRP を測定し、関節炎などの炎症の有無を確認する参考にする検査です。

対象となる方の目安

- 関節の腫れや痛みが続いている方
- 朝のこわばりや関節の動かしにくさがある方
- 微熱、だるさ、食欲低下など、炎症を疑う症状が続く方
- 健診や診察で CRP 高値を指摘されたことがある方
- 関節リウマチや膠原病などの炎症性疾患が気になる方
- RF 検査とあわせて、炎症の有無も確認したい方

注意事項

- CRP は炎症の程度をみる検査であり、関節リウマチに特異的な検査ではありません。
- 感染症、けが、手術後、他の炎症性疾患などでも上昇することがあります。
- 関節リウマチでも、初期や炎症が軽い場合には CRP が正常のことがあります。
- CRP が高い場合は、原因を確認するために診察や追加検査が必要です。

S　眼科検査

眼圧測定・眼底検査・視力検査・色覚検査を組み合わせ、緑内障、網膜・視神経の異常、糖尿病や高血圧に伴う目の変化、見え方や色の見分けにくさなどを確認する検査です。

S-1　眼圧測定

検査概要

- 目の硬さ、つまり眼球内の圧力を測定し、緑内障などでみられる眼圧上昇の有無を確認する検査です。

対象となる方の目安

- 40 歳以上で、緑内障が気になる方
- 家族に緑内障の方がいる方
- 健診で眼圧高値を指摘されたことがある方
- 強い近視がある方
- 視野が欠ける、見えにくい、目が疲れやすいなどが気になる方
- 糖尿病、高血圧、脂質異常症を指摘されたことがある方
- 目の健康状態を定期的に確認したい方

注意事項

- 眼圧が正常でも緑内障を完全に否定できるわけではありません。
- 眼圧は時間帯、体調、測定条件などにより変動することがあります。
- 眼圧高値がみられた場合は、眼底検査、視野検査、OCT 検査などを含めた眼科での精密検査をおすすめします。

S-2　眼底検査

検査概要

- 目の奥にある網膜、血管、視神経を観察し、緑内障、糖尿病網膜症、高血圧性変化、網膜出血などの有無を確認する検査です。

対象となる方の目安

- 40 歳以上で、緑内障や網膜の病気が気になる方
- 糖尿病、高血圧、脂質異常症を指摘されたことがある方
- 健診で視神経乳頭陥凹、眼底異常、網膜出血などを指摘されたことがある方
- 家族に緑内障や網膜疾患の方がいる方
- 視力低下、かすみ目、視野の欠け、ゆがんで見えるなどが気になる方
- 強い近視がある方
- 目の奥の血管や視神経の状態を確認したい方

注意事項

- 眼底写真だけでは、すべての目の病気を診断できるわけではありません。
- 白内障、瞳孔の大きさ、まぶた、角膜の状態などにより、きれいに撮影できない場合があります。

S-3　視力検査

検査概要

- 視力表を用いて、裸眼または眼鏡・コンタクトレンズ使用時の見え方を確認する検査です。

対象となる方の目安

- 見えにくさ、かすみ目、目の疲れが気になる方
- 眼鏡やコンタクトレンズの度数が合っているか気になる方
- 運転、読書、パソコン作業などで見え方に不安がある方

- 健診で視力低下を指摘されたことがある方
- 糖尿病、高血圧などがあり、目の変化が気になる方
- 定期的に視力の変化を確認したい方

注意事項

- 視力低下の原因は、近視・遠視・乱視だけでなく、白内障、緑内障、網膜疾患などの場合もあります。
- その日の体調、目の疲れ、ドライアイ、検査環境などで結果が変わることがあります。
- 視力低下が続く場合や左右差が大きい場合は、眼科での詳しい検査をおすすめします。

S-4　色覚検査

検査概要

- 色覚検査表などを用いて、色の見分けにくさや色覚の特性を確認する検査です。

対象となる方の目安

- 色の見分けにくさが気になる方
- 家族に色覚異常を指摘された方がいる方
- 過去に学校健診などで色覚異常の疑いを指摘されたことがある方
- 進学、就職、資格取得などで色の識別が必要となる可能性がある方
- 信号、配線、表示、薬剤、検査結果など、色の判別が重要な場面がある方
- 自分の色の見え方の特性を確認しておきたい方

注意事項

- 検査表の種類、照明、検査環境により結果が影響を受けることがあります。
- 色覚の特性があっても、日常生活で大きな支障がない場合もあります。
- 結果の取り扱いにはプライバシーへの配慮が必要です。

- 進学・就職・資格取得などに関係する場合は、必要に応じて眼科専門医にご相談ください。

T　アレルギー検査

View39 検査により、花粉・ダニ・ハウスダスト・動物・カビ・食物など、代表的な 39 種類のアレルゲンに対する反応を血液検査で確認する検査です。

T-1　View39 検査

検査概要

- 採血により、花粉、ダニ、ハウスダスト、動物、カビ、食物など 39 種類のアレルゲンに対する特異的 IgE 抗体をまとめて調べる検査です。

対象となる方の目安

- 花粉症、鼻水、くしゃみ、鼻づまりが気になる方
- 目のかゆみ、充血、涙目などが気になる方
- じんましん、湿疹、皮膚のかゆみを繰り返す方
- 食後に口のかゆみ、腹痛、下痢、じんましんなどが出たことがある方
- 咳、喘鳴、息苦しさなど、アレルギー性の呼吸器症状が気になる方
- ペット、ハウスダスト、ダニ、カビなどによるアレルギーが気になる方
- 原因がはっきりしないアレルギー症状がある方
- 家族にアレルギー疾患があり、自分の体質を確認したい方
- 生活環境や食生活の見直しに役立てたい方
- 代表的なアレルゲンを一度に広く調べたい方

注意事項

- 陽性でも症状が出るとは限らず、陰性でもアレルギーを完全には否定できません。
- 結果は、症状、食事内容、生活環境などとあわせて確認します。
- 食物アレルギーが疑われても、自己判断で食品を除去せず、医師にご相談ください。

U　感染症検査

肝炎関連、性感染症関連、ワクチンで予防できる感染症、ヘルペス感染の既往や免疫状態などを血液検査で確認する検査です。感染の有無、過去の感染、ワクチン接種の必要性を考える参考になります。

―　共通の注意事項　―

※感染直後は陰性となることがあり、時期によっては再検査が必要です。
※陽性または判定保留の場合は、医療機関で確認検査や診察が必要です。
※ワクチン接種の必要性は、抗体価・接種歴・罹患歴などをあわせて判断します。
※検査はプライバシーに配慮して実施します。

肝炎関連

U-1　HBs 抗原

検査概要

- 採血により HBs 抗原を測定し、現在 B 型肝炎ウイルスに感染している可能性を確認する検査です。

対象となる方の目安

- B 型肝炎ウイルス感染の有無を確認したい方
- これまで肝炎ウイルス検査を受けたことがない方
- 健診で肝機能異常を指摘されたことがある方
- 家族に B 型肝炎、肝硬変、肝がんの方がいる方
- 医療・介護・救急など、血液に触れる機会がある方
- 輸血、手術、血液製剤使用、入れ墨、ピアスなどの経験がある方

注意事項

- 陽性の場合は、肝炎専門医・消化器内科などで精密検査を受けることをおすすめします。
- 感染直後は検査で陰性となる期間があるため、感染機会からの時期によっては再検査が必要です。
- 肝機能が正常でも、B 型肝炎ウイルスに感染している場合があります。
- 検査結果だけで感染時期や病状の重さを判断することはできません。

U-2　HBs 抗体

検査概要

- 採血により HBs 抗体を測定し、B 型肝炎ウイルスに対する免疫があるかを確認する検査です。

対象となる方の目安

- B 型肝炎ワクチンの効果を確認したい方
- 過去に B 型肝炎ワクチンを接種したことがある方
- 医療・介護・救急など、血液に触れる機会がある方
- B 型肝炎に対する免疫があるか確認したい方
- 家族や同居者に B 型肝炎ウイルス感染者がいる方

注意事項

- HBs 抗体陽性は、過去の感染またはワクチン接種により免疫がある可能性を示します。
- HBs 抗体が陰性または低値の場合は、ワクチン接種を検討する場合があります。
- 現在感染しているかどうかの確認には、HBs 抗原など他の検査結果と合わせて判断します。
- 職業上の感染リスクがある方は、施設基準に沿った確認が必要です。

U-3　HCV 抗体

検査概要

- 採血により HCV 抗体を測定し、C 型肝炎ウイルスに感染したことがあるか、または現在感染している可能性を確認する検査です。

対象となる方の目安

- C 型肝炎ウイルス感染の有無を確認したい方
- これまで肝炎ウイルス検査を受けたことがない方
- 健診で肝機能異常を指摘されたことがある方
- 輸血、手術、血液製剤使用の経験がある方
- 入れ墨、タトゥー、ピアス、針治療などの経験がある方
- 家族に C 型肝炎、肝硬変、肝がんの方がいる方

注意事項

- HCV 抗体陽性だけでは、現在も感染しているか、過去の感染かは判断できません。
- 陽性の場合は、HCV-RNA 検査などの追加検査が必要になることがあります。
- C 型肝炎は自覚症状が少ないまま慢性化することがあります。
- 陽性の場合は、肝炎専門医・消化器内科などでの相談をおすすめします。

U-4　HAV-IgM

検査概要

- 採血により HAV-IgM 抗体を測定し、A 型肝炎ウイルスに最近感染した可能性を確認する検査です。

対象となる方の目安

- A 型肝炎が心配な方
- 海外渡航後に発熱、倦怠感、食欲低下、黄疸などがある方
- 加熱不十分な食品や衛生状態が不十分な環境での飲食が気になる方
- 急性肝炎を疑う症状がある方
- 肝機能異常を指摘され、A 型肝炎の確認が必要な方

注意事項

- HAV-IgM は主に急性 A 型肝炎を疑う場合に行う検査です。
- 過去の感染やワクチンによる免疫確認には、別の抗体検査が必要になる場合があります。
- 陽性の場合は、感染拡大防止や肝機能評価のため医療機関での対応が必要です。

性感染症関連

U-5　RPR＋TPHA

検査概要

- 採血により RPR と TPHA を組み合わせて調べ、梅毒感染の有無や活動性を確認する検査です。

対象となる方の目安

- 梅毒感染の有無を確認したい方
- 性感染症検査を受けたことがない方
- 新しいパートナーができた方
- コンドームを使用しない性交渉の機会があった方
- パートナーが性感染症を指摘された方
- 性器や口の中のしこり、ただれ、発疹、リンパ節の腫れが気になる方
- 妊娠を考えている方、またはパートナーと一緒に確認したい方

注意事項

- RPR と TPHA は組み合わせて判定することが重要です。
- 感染初期には陰性となる場合があり、時期によっては再検査が必要です。
- 過去に梅毒に感染した方では、治療後も一部の検査が陽性のまま残ることがあります。
- 陽性の場合は、医療機関での診断・治療・パートナー対応が必要です。

U-6　HIV 検査

検査概要

- 採血により HIV 感染の可能性を調べる検査です。陽性の場合は、必ず確認検査が必要です。

対象となる方の目安

- HIV 感染の有無を確認したい方
- 性感染症検査を受けたことがない方
- コンドームを使用しない性交渉の機会があった方
- パートナーが HIV または性感染症を指摘された方
- 複数の性的パートナーがいる方
- 梅毒など他の性感染症にかかったことがある方
- 妊娠を考えている方、またはパートナーと一緒に確認したい方

注意事項

- 感染初期には検査で陰性となるウインドウ期があるため、感染機会からの時期によっては再検査が必要です。
- 陽性または判定保留の場合は、専門医療機関での確認検査と相談が必要です。
- 検査はプライバシーに十分配慮して実施します。

その他の検査

U-7　麻疹抗体

検査概要

- 採血により麻疹に対する抗体を測定し、麻疹への免疫が十分にあるかを確認する検査です。

対象となる方の目安

- 麻疹に対する免疫があるか確認したい方
- 麻疹ワクチンの接種歴が不明な方
- 麻疹にかかったことがあるか不明な方
- 医療・介護・保育・教育など、人と接する機会が多い方
- 妊娠を考えている方、または同居家族の感染予防を考えたい方
- 海外渡航を予定している方

注意事項

- 抗体価が低い場合は、ワクチン接種を検討する場合があります。
- 妊娠中は生ワクチンを接種できないため、妊娠前の確認が大切です。
- ワクチン接種の必要性は、接種歴、罹患歴、抗体価を合わせて判断します。

U-8　風疹抗体

検査概要

- 採血により風疹に対する抗体を測定し、風疹への免疫が十分にあるかを確認する検査です。

対象となる方の目安

- 風疹に対する免疫があるか確認したい方
- 妊娠を考えている女性
- 妊娠を考えている女性のパートナーや同居家族
- 風疹ワクチンの接種歴が不明な方
- 医療・介護・保育・教育など、人と接する機会が多い方
- 職場や家庭で妊婦と接する機会がある方

注意事項

- 抗体価が低い場合は、ワクチン接種を検討する場合があります。
- 妊娠中は風疹ワクチンを接種できないため、妊娠前の確認が重要です。
- 妊娠初期に風疹に感染すると、胎児に影響する可能性があります。

U-9　ムンプス〔流行性耳下腺炎〕抗体

検査概要

- 採血によりムンプスに対する抗体を測定し、流行性耳下腺炎への免疫があるかを確認する検査です。

対象となる方の目安

- ムンプスに対する免疫があるか確認したい方
- ムンプスワクチンの接種歴が不明な方
- ムンプスにかかったことがあるか不明な方
- 医療・介護・保育・教育など、人と接する機会が多い方
- 流行性耳下腺炎の感染予防を考えたい方
- 家庭内や職場で感染リスクを確認しておきたい方

注意事項

- 抗体価が低い場合は、ワクチン接種を検討する場合があります。
- ワクチン接種の必要性は、接種歴、罹患歴、抗体価を合わせて判断します。
- 成人で感染すると、髄膜炎、精巣炎、卵巣炎、難聴などを起こすことがあります。

U-10　ヘルペス抗体

検査概要

- 採血によりヘルペスウイルスに対する抗体を測定し、過去の感染や感染の可能性を確認する検査です。

対象となる方の目安

- 口唇ヘルペスや性器ヘルペスにかかったことがあるか確認したい方
- 繰り返す口唇の水ぶくれ、陰部の水ぶくれや痛みが気になる方
- パートナーへの感染が心配な方

- 妊娠を考えている方で、ヘルペス感染歴が気になる方
- 過去の感染の有無を血液検査で確認したい方

注意事項

- ヘルペス抗体検査は、主に過去の感染や免疫反応を確認する検査です。
- 抗体陽性でも、現在症状が出ているとは限りません。
- 抗体検査だけで、いつ感染したか、どこから感染したかを正確に判断することはできません。
- 水ぶくれ、ただれ、痛みなど症状がある場合は、病変部からの検査や医師の診察が重要です。

Ⅴ　歯科健診

口腔衛生状態・口腔乾燥状態、咬合力・舌口唇運動機能・舌圧、咀嚼機能・嚥下機能、口腔粘膜の視診を組み合わせ、むし歯・歯周病だけでなく、噛む・話す・飲み込む機能や口腔内の異常を総合的に確認する健診です。

―　共通の注意事項　―

※歯科健診は、口腔内の状態や口腔機能を確認するための検査です。病気を確定するものではありません。
※異常が疑われた場合は、歯科・歯科口腔外科などで診察や追加検査が必要です。

Ⅴ-1　歯科健診

◆ 口腔衛生状態・口腔乾燥状態

検査概要

- 口の中の汚れ、舌苔、歯垢、歯石、歯ぐきの状態、唾液の量や口腔乾燥の程度を確認し、口腔内を清潔に保てているかを評価する検査です。

対象となる方の目安

- 歯みがきをしていても、口臭や口のねばつきが気になる方
- 歯ぐきの腫れ、出血、歯石、歯の汚れが気になる方
- 口の渇き、唾液が少ない感じがある方
- 食事中に口の中が乾きやすい方
- 入れ歯、ブリッジ、インプラントを使用している方
- 糖尿病、シェーグレン症候群、薬の副作用などによる口腔乾燥が気になる方
- むし歯や歯周病を予防したい方

注意事項

- 本検査は口腔内の状態を確認するスクリーニングであり、むし歯や歯周病の確定診断には歯科診察やレントゲン検査などが必要になることがあります。
- 口腔乾燥は、加齢、薬剤、脱水、糖尿病、自己免疫疾患、口呼吸などの影響を受けることがあります。
- 異常がみられた場合は、医療機関での診察や追加検査が必要になることがあります。
- 口臭、出血、強い口の渇きが続く場合は、健診ではなく歯科・口腔外科での相談をおすすめします。

◆ 咬合力・舌口唇運動機能・舌圧

検査概要

- 噛む力、舌や唇を動かす力、舌で押す力を測定し、食べる・話す・飲み込むための口腔機能が低下していないかを確認する検査です。

対象となる方の目安

- 食べ物が噛みにくい方
- 硬いものを避けるようになった方
- 食事に時間がかかるようになった方
- 滑舌が悪くなった、発音しにくくなったと感じる方
- 口から食べ物がこぼれやすい方
- 舌の動きや口唇の動きが気になる方
- 高齢期に向けて、オーラルフレイルを予防したい方
- 入れ歯や噛み合わせが合っているか気になる方

注意事項

- 検査結果は、歯の本数、入れ歯の状態、噛み合わせ、筋力、加齢、全身疾患などの影響を受けます。
- 一時的な体調不良や口腔内の痛みにより、十分な力が出せない場合があります。
- 急にしゃべりにくくなった、口角が下がる、飲み込みにくくなったなどの症状がある場合は、脳卒中などの可能性もあるため、速やかに医療機関を受診してください。

◆ 咀嚼機能・嚥下機能

検査概要

- 食べ物を噛み砕く力や、飲み込む機能を確認し、食べにくさ、むせやすさ、誤嚥リスク、低栄養リスクの把握に役立てる検査です。

対象となる方の目安

- 食べ物をよく噛めない、噛む力が弱くなったと感じる方
- 食事中にむせることが増えた方
- 飲み込みにくさがある方
- 食事に時間がかかるようになった方
- 硬いもの、ぱさつくもの、水分でむせやすい方
- 体重減少、食欲低下、食事量の減少が気になる方
- 誤嚥性肺炎や低栄養を予防したい方
- 高齢期に向けて「食べる力」を確認しておきたい方

注意事項

- 咀嚼機能は、歯の本数、入れ歯、噛み合わせ、唾液量、舌や頬の動きなどの影響を受けます。
- 嚥下機能は、加齢、脳血管疾患、神経疾患、筋力低下、薬剤などの影響を受けることがあります。

◆ 口腔粘膜の視診

検査概要

- 歯科医師などが口の中を目で確認し、舌・歯ぐき・頬の粘膜・口底・口蓋などに、口腔がんや前がん病変が疑われる変化がないかを確認する検査です。

対象となる方の目安

- 口内炎が 2 週間以上治らない方
- 舌、歯ぐき、頬の粘膜などに白い部分や赤い部分がある方
- 口の中のしこり、ただれ、出血、痛みが気になる方

- 入れ歯や歯が当たって、同じ場所に傷ができやすい方
- 喫煙習慣、飲酒習慣がある方
- 口腔がんが心配な方
- 口の中を定期的に確認しておきたい方
- 口腔内の違和感、飲み込みにくさ、話しにくさが気になる方

注意事項

- がんが疑われる場合は、歯科口腔外科、耳鼻咽喉科、頭頸部外科などでの詳しい診察、細胞診・組織診、画像検査などが必要になることがあります。
- 初期の病変や見えにくい部位の病変は、視診だけでは判断が難しい場合があります。
- 口内炎が長引く、しこりがある、粘膜の赤みや白い変化が続く、出血や痛みがある場合は、健診を待たずに医療機関を受診してください。

W　その他の検査

W-1　血液型検査〔ABO・Rh〕

検査概要

- 採血により、ABO 血液型と Rh 血液型を確認する検査です。
- ABO 血液型は A 型・B 型・O 型・AB 型、Rh 血液型は主に Rh 陽性・Rh 陰性を確認します。

対象となる方の目安

- 自分の血液型を確認しておきたい方
- ABO 型、Rh 型を正確に確認したい方
- 手術、妊娠、出産、輸血などに備えて血液型を把握しておきたい方
- 過去に調べた血液型が不明確な方
- 家族から聞いた血液型だけで、検査結果として確認したことがない方

注意事項

- 輸血や手術の際には、医療機関で改めて血液型を確認します。
- まれに判定が難しく、追加検査が必要になることがあります。

W-2　聴力検査

検査概要

- ヘッドホンなどを使用し、左右それぞれの耳で一定の高さ・大きさの音が聞こえるかを確認する検査です。
- 健診では、主に会話に関係する音や高い音の聞こえを確認します。

対象となる方の目安

- 聞こえにくさを感じる方

- 会話を聞き返すことが増えた方
- テレビやスマートフォンの音量が大きくなった方
- 耳鳴り、耳のつまり感が気になる方
- 騒音の多い環境で働いている方、または働いていた方
- イヤホンやヘッドホンを長時間使用する方
- 加齢による聞こえの変化が気になる方
- 健診で聴力低下を指摘されたことがある方

注意事項

- 耳あか、外耳炎、中耳炎、加齢、騒音、薬剤、体調などにより結果が変わることがあります。
- 検査環境の音や集中状態により、結果に影響が出ることがあります。

W-3　体組成測定

検査概要

- 体組成計を用いて、体重、体脂肪率、筋肉量、推定骨量、内臓脂肪レベル、基礎代謝量などを測定し、身体のバランスを確認する検査です。

対象となる方の目安

- 体重だけでなく、体脂肪量や筋肉量も確認したい方
- 肥満、メタボリックシンドロームが気になる方
- 筋肉量の低下やフレイルが気になる方
- 運動や食事改善の効果を確認したい方
- ダイエット中で、体重変化の中身を確認したい方
- 糖尿病、高血圧、脂質異常症、脂肪肝などが気になる方
- 高齢期に向けて、筋肉量を維持したい方
- 健康づくりの目標設定に役立てたい方

注意事項

- 食事、飲水、運動、入浴、むくみなどにより測定値が変動します。

- 比較する場合は、できるだけ同じ条件で測定してください。
- 植込み型医療機器を使用している方は測定できない場合があります。